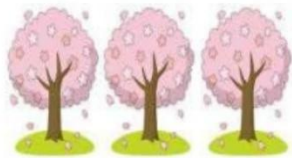


高取小だより

令和7年10月17日



三本桜

第25号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
10月の目標：好きな本を見つけよう

児童会長 所信表明

皆さん、おはようございます。後期児童会会長になりました、6年2組 春内爽良です。僕は高取小学校を笑顔いっぱいな学校にしていきたいです。そのために、2つのことを頑張ります。

1つ目は全校遊びです。全校遊びで高取っ子一人一人が笑顔になれるようにします。後期も企画するので楽しみにしてください。

2つ目は、他学年との関わることができる企画です。違う学年と一緒に過ごす機会が増えれば、仲良くなれると考えたからです。

2つを達成するために、皆さんと一緒に頑張りたいことがあります。それは、友達や先生、地域の方々に元気な挨拶をすることです。挨拶は、みんなが笑顔になる、大きな一歩だと思うからです。一緒に大きな声で挨拶をして、高取小学校を盛り上げてきましょう。

高取っ子の力を合わせて、笑顔いっぱいの学校にしていきたいです。精一杯頑張るのでよろしくお願いします。



無用の用

これまで、「費用対効果；コスパ」「時間対効果；タイパ」はよく聞く言葉でした。1週間前から「スペースパフォーマンス；スペパ」という言葉がトレンドになっているそうです。

ノーベル化学賞の受賞者に決まった北川進・京都大学特別教授。研究生活での指針は「無用の用」、無駄に見えるものが実は重要な役割を果たすという中国の思想家「莊子」の言葉です。北川氏は学生時代に読んだ湯川秀樹博士の著書でこの言葉に出会い、研究で心がけたといいます。

からっぽの空間は役に立たないように見えますが、その空間があるからこそ茶わんは用を成します。しばしば例に挙げられますが、北川さんのつくり出した金属有機構造体（MOF）にまさに当てはまります。共同受賞者のリチャード・ロブソン博士は、金属と有機物から面白い物質がつかれると考えましたが、できた物質は隙間だらけでもろく、すぐに壊れました。興味をもつ人がほとんどいない中、北川氏はいち早くその重要性を見抜きました。壊れにくいMOFをつくり、弱点だった隙間に、二酸化炭素（CO₂）や水素などの気体を取り込めることを示しました。

着想のきっかけも独特です。北川氏は近畿大学の助手時代、大型コンピューターを使うために京（裏面へ）

都大学の施設に通在しました。施設では毎回 1 時間ほど待たされましたが、待ち時間にデータを眺めていてひらめき、大発見に至ったといひます。

「無駄」への評価は厳しくなっています。コスパやタイパに加え、空間の効率を表すスペパという言葉も現れました。しかし、京都大学の施設の回転効率が高く、北川氏に待ち時間がなかったら、ひらめくこともなかったかもしれません。

北川氏に先立ち、ノーベル生理学・医学賞の受賞が決まった坂口志文・大阪大学特任教授は記者会見で「日本は基礎研究への支援が不足している」と訴えましたが、これは科学研究者の共通認識でしょう。

北川氏の研究は、費用対効果の面でも、その意義がなかなか認められず、懸命に「用」を説くことで研究費を勝ち取ったそうです。応用に直結しない基礎研究は、「用」が見えにくいです。「研究開発をより効果的・効率的に」という科学政策の下ではなおさらでしょう。地球環境の難題を解決するかもしれない研究の火を消さなかった北川氏は、竹のように真っ直ぐであり、また、しなやかさをもった方なのだと思います。これからの教育界においても、真っ直ぐでありながらも、しなやかでなければならないと思っています。

わが子のことは、親の私が一番よく知っている

保護者の皆様には、お子様の成長に伴って、わが子だからこわかることもあれば、わが子なのにわからないことも出てくるようになってきたのではないかと思います。「わが子のことは、親の私が一番よく知っている」という言葉を保護者の方から聞くと、複雑な気持ちになります。

確かに、生まれてから一番注意深くお子様のことを見てきたのは親です。子どもの表情や体調の変化は、親だからこわかることが多くあります。しかし、親だからこそ「見えにくいこと」もあります。子どもは、親に心配をかけまいとして、本音を隠すことがあります。「学校ではうまくやっている」と言いながら、実は友人関係に悩んでいたたり、勉強に不安を抱えていたりすることもあります。

また、思春期になると親との距離を意識するようになります。それは成長の証でもありますが、親としては「何を考えているのかわからない」と感じることもあるでしょう。そして、一番近い関係だからこそ、言えないことも出てきます。私たち教員と違い、親子の関係は切ることができません。だからこそ、一番知られたくないことは隠すようになります。

私たち学校の教職員は、子どもたちの「社会の中での姿」を見ています。友達との関わり方、集団の中での振る舞い、困ったときの対応など、家庭とは違う一面が見えます。だからこそ、家庭と学校が連携することが大切です。親が見ている「家庭での姿」と、教師が見ている「学校での姿」を共有することで、子どもをより深く理解することができます。

そして何より大切なのは、「わからないこともある」そして「あなたを受け入れる」という前提に立つことです。完全に理解することはできなくても、そうした姿勢が子どもにとって安心につながります。「わかること」と「わからないこと」の両方を受け止めながら家庭と学校が連携して、子どもと向き合っていくことが、成長を支える大きな力になります。よろしくお願いします。

